

# ノラ猫黒ちゃん

のらねこ 黒ちゃん



作:近藤せいけん

毎朝、玄関さきの通路のはじめで、この家のご主人さまをまっている。この家に飼われている二匹の犬の朝の散歩のあと、もらえる「えさ」をしんぼう強く待っている。

この家には、飼い猫の「ミー」ちゃんが室内にいる。しかしノラ猫「黒」ちゃんは「ミー」ちゃんに会ったことはない。

いつも、家の中から聞こえる、鳴き声を聞いて、「ミー」ちゃんを想像している。

「会ってみたいな、どんな猫かな・・・」

鳴き声で、メス猫であることは解っている。二匹のこわい犬に阻まれて、家の中を見る事は出来ない。

「しんぼう強く、待っていればいつか会える」と思っている。

「早く、会いたいなあ〜」とため息がでちゃう。

ノラ猫「黒」ちゃんは雨の日がキライ。雨が降っていると玄関のはしで待ってられない。たまにエサがもらえない日もある。雨の日は屋根のある物置の棚の上でまっているが、この家のご主人様に忘れられてしまう。お腹をすかして、次の日の朝まで待たないとならない。とてもツライ日となる。

だから「黒」ちゃんは雨がキライ。

ある夏の日、朝の散歩で、二匹の犬がこの家のご主人様に連れられ、元気よく散歩にいった。その後、玄関ドアが少し開いて、そこから、この家の猫が顔をにゅう〜と出した。

おもわず、「かわい〜い」と。

でも、すぐ引っ込んだ。

「黒ちゃん」はもう一度「にゃ〜お〜ん」と鳴いてみた。

ドアは開かれなかった。

それでも、「黒ちゃん」はあきらめず、玄関ドアの前に行き「にゃ〜お〜ん」と呼んでみた。

すると、中から「にゃ〜にゃ〜」と甘い声が返ってきた。

飛びあがって喜んだ。

「にゃ〜お〜ん」とまた鳴いてみた。

すると突然犬が帰ってきた。大きなうなり声で「わん、わん、わん〜」と「わん、わん、わん〜」二匹の犬が吠えた。

「黒ちゃん」はビックリして、毛を逆立てて、あわててにげた。また次の日も二匹のこわい犬が散歩に出たあと、玄関ドアの前に行き「にゃ〜お〜ん」と鳴いて、「ミー」ちゃんを呼んでみた。

「ミー」ちゃんも家のドアの内側から「にゃ〜にゃ〜」と鳴いてこたえた。

それから、毎日二匹のこわい犬が散歩に出たあと、ノラ猫「黒」ちゃんは玄関ドアの前に行き「にゃ〜お〜ん」と鳴いて、「ミー」ちゃんを呼ぶ。「ミー」ちゃんの声は聞こえるが、姿は見えない。一度だけ、「ミー」ちゃん見たきりだ。

いつしか、春が過ぎ、夏がゆき、朝晩、涼しくなった秋を迎えた。

いつものように、二匹のこわい犬が散歩に出たあと、玄関ドアの前に行き「にゃ〜お〜ん」と鳴いた。しかし今日は

「ミー」ちゃんの声が聞こえない。

「あれ、どうしたんだろう」「なぜ、返事がないのだろうか？」

すごく、心配になった。

それから、毎日、玄関ドアの前に行き「にゃ〜お〜ん」と鳴いた。でも返事は返ってこない。

ある冷えこんだ、寒い朝。 この家の小さな女の子がノラ猫「黒」ちゃんにエサを持ってきた。

「 さあ～たくさんお食べ」

「ミィー」ちゃん分まで、食べてね」

「 あのね、「黒」ちゃん、「ミィー」ちゃんねえ、天国にってしまったの」

「 お星さまになったの」

それでも、毎日 ノラ猫「黒」ちゃんは二匹のこわい犬が散歩に出たあと、玄関ドアの前に行き「にゃ～お～ん」と鳴いていました。